

小渋橋下流で多量の土砂により家屋が埋没(大鹿村)

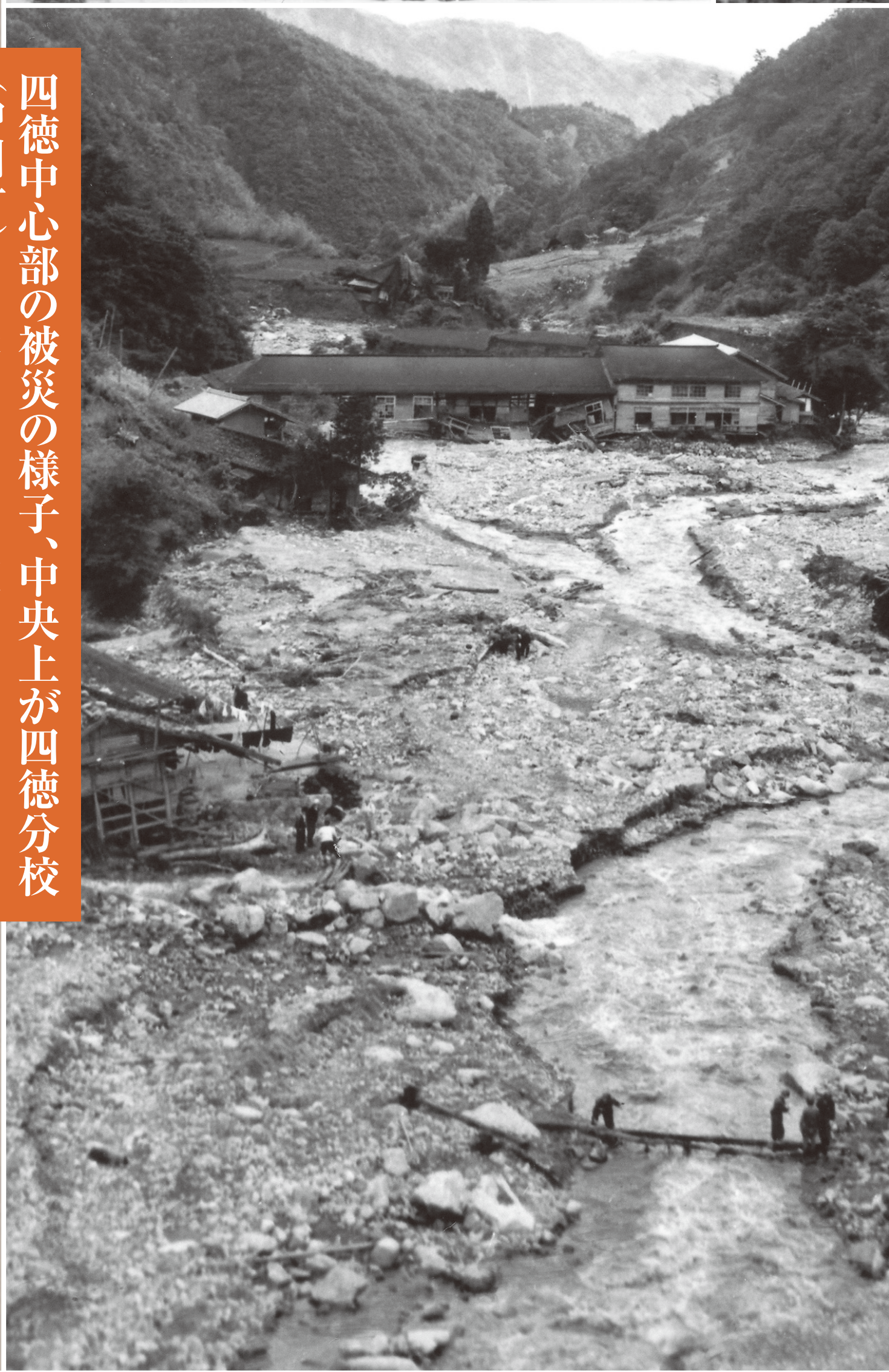


高森町山吹の被災状況



大西山が崩壊し、土煙が上がった瞬間(大鹿村)「中村幸明氏撮影」

四徳中心部の被災の様子、中央上が四徳分校(中川村) 信濃毎日新聞社提供



三峰川から流出した土砂に埋った家屋と水田(伊那市)

天候も回復した6月29日午前8時30分頃、大西山で、小規模な崩壊が発生しました。これが大西山の大崩壊の始まりでした。

9時10分頃、大きな轟音とともに崩落した石や土砂が大河原中心部を襲いました。高さ450mから落下した厚さ15m、幅500mの岩塊は屏風が倒れるように崩れ落ち、大量の石や土砂は、小渋川の堤防よりもはるかに高い山津波となって対岸の家屋に押し寄せました。



土砂に埋もれた天龍社市田工場(高森町)

最大の悲劇といわれる大西山の崩壊、
災害史上まれに見る惨事として記憶された。